

認定看護師シタター



2016年11月発行 vol.38

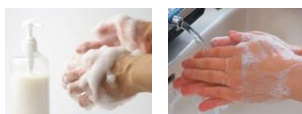
担当：感染管理認定看護師 柴田美加

～インフルエンザやノロウイルスなどの 感染症が流行する時期を迎えます～

感染対策の基本である「**手指衛生**」がますます重要となります。日頃から取り組みが行われていると思いますが、なかなか徹底できない悩みもあるのではないのでしょうか？ もう一度「**手指衛生**」について振り返り、適切な感染対策で ***うつさない・もらわない・拡げない*** を実践していきましょう！

<手指衛生の選択>

*目に見える汚染がある場合：流水と石鹸



*目に見える汚染が無い場合：速乾性アルコール製剤



POINT!

洗い残しの多い場所を意識して実施できていますか？
指先、爪の際、指の間など

<手指衛生5つのタイミング>

医療関連感染の低減に向けた確実な手指衛生を実践するため、WHOが推奨している手指衛生の場面です

- ① 患者に触れる前
- ② 清潔／無菌操作の前
- ③ 体液に曝露された可能性のある場合
- ④ 患者に触れた後
- ⑤ 患者周辺の物品に触れた後



POINT!

*必要な場面ですぐに手指衛生ができていますか？
*手指衛生ができる（業務形態や動線を考慮した）環境は整っていますか？

<手指衛生遵守のモニタリング>

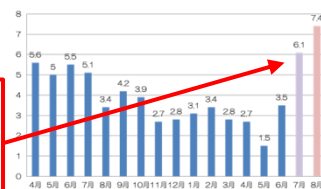
手指衛生の実施状況を観察されていることをスタッフが意識することで、手指衛生の実施や対策を動機づける介入策となります。参考にしてください。

*方法① **サーベイランス**：1日1患者あたりの実施回数を算出する方法です

$$\frac{\text{一定期間の使用量（測定または払い出し量）}}{\text{一定期間の述べ患者数}} \div \text{製剤1回量}$$

当院では遵守状況の伸び悩みがあり、製剤の携帯導入対策で、向上しました！

1日1患者あたりの手指衛生実施回数



*方法② **直接観察法**

観察者が、所定のポイント（5つのタイミングにあたる場面）での一定時間（期間）内における手指衛生を実施すべき回数と、実際の手指衛生実施回数を目視にて観察する方法です

手荒れ防止の対策も併せて行いましょう！

- ① 熱いお湯で洗わない
- ② 洗うときに手を強くこすらない
- ③ 石鹸成分の洗い残しを防ぐ
- ④ ペーパーで強くこすらない（押さえ拭きが効果的）
- ⑤ 保湿をする（ハンドクリームなど）

効果的な手指衛生
にするためには！

